

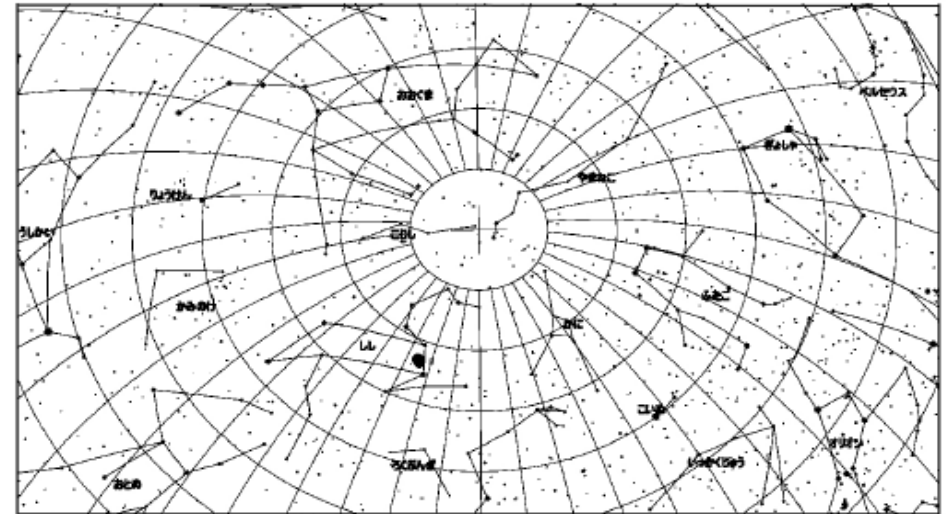
姫天だより

★今月のテーマ 春の星座の探し方と星食のお話

4月9日の火曜日にヒヤデス星団食を見ることができます。おうしざの顔の部分にV字型に並んでいる星が月に隠されてゆきます。近くには火星も輝いているので、35ミリフルサイズのカメラで150ミリ中望遠レンズを使えばヒヤデス星団食と火星と一緒に移すことができます。カメラをお持ちの方はチャレンジしてみるのも面白いかもしれません。

だれでも一度は聞いたことのある“北斗七星”をみつけて春の星座を探してみよう。春の星座は北斗七星を使って順番に探していくことができます。一緒に探しながら見つけ方を覚えませんか？

月も星と同じように地球の自転に沿って東から西へ動いていきますが、月は地球の周りを回っていて、その方向は西から東へと逆方向に動いています。翌日同じ時間に夜空を見上げるとおよそ10度東に位置しています。その月に星が隠されしばらくするとまた見えるようになる現象を星食といいます。



4月15日午後8時の天頂付近

-次回の天文クラブ-

●4月の星を見る会

4月13日(土)午後7時30分より
月の観察

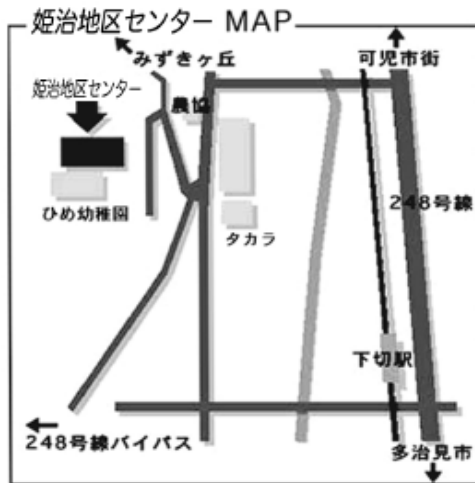
●5月の星を見る会

5月11日(土)午後7時30分より
火星の観察
春の星座教室

※観察時は冷えますので暖かい格好で来てください。

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104

姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>



JR太多線下切駅より徒歩13分
2019年4月1日発行

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで

★今月の星座 こじし座

しし座は皆さんも良く知っている星占いに使われる星座ですが、“こじし座”なんて星座があるの？と思われる方が多くいると思います。4月の下旬午後8時ごろに頭の真上にくる星座なのですが、しし座の背中にちょこんと乗ったような位置に輝いています。しかし、星座絵にあるような姿を描くのはかなり困難な星座です。なぜならこの星座は17世紀にドイツの天文学者ヘベリウスがしし座とおおぐま座の隙間にある星ぼしをつないで作った振興星座だからです。実際に夜空で見つけられる星は“へ”の字型に並んだ3つの星くらいで4等星ですから、可児市の街中で探すには、空の澄んだ日に頭の真上に来る頃でないといつけれないかもしれません。ところが、暗い星まで写真でとらえたものをよく見ると肉眼では見えない7等星以下の星ぼしまで結びと意外なことに、しし座の“なてはマーク”ししの大鎌にそっくりな星の並びが見つかります。もしかするとヘベリウスはこの星の並びに気づいて“ししの大鎌”ならぬ“こじしの小鎌”と見立てて“こじし座”を作ったのかもしれない。小望遠鏡で楽しめる星はありませんが、双眼鏡を使って“ミニなてはマーク”“こじしの小鎌”の星の並びを探してみるのも楽しいと思います。

また、新しく作られた星座なので神話はありません。皆さんで何か物語を考えて自分だけの神話を作ってみるのも面白いかもしれませんね。ここ数ヶ月マイナー星座の紹介になって何となく個人的な趣味に走っているようにも思いますが、皆さんも有名な星座の隙間にひっそりと輝いている星座にも目を向けてあげてください。

4月号
2019